

令和7年度教育研究

三原市立鷺浦小学校

【研究テーマ】	児童が主体的に活動し、資質・能力を高め合う学びの創造 ～個々の児童の実態に合わせた授業の手立ての工夫～						
【目指す成果】	一人ひとりの実態に応じた手立てを講じた授業を行うことで、児童が主体的に学習することができる。						
【現状及びテーマ設定の理由】 本校は、三原市の離島、豊かな自然に恵まれた佐木島にある特認校である。ほとんどの児童が、三原市内から船で通っている。島民の方々は、本校児童と積極的に関わってくださり、児童は、島民の方々と関わりを深めることを通して、地域に馴染み、佐木島のことについて学び、人と関わる力が育ってきている。そこで今年度、これまでの経験を生かし地域の資源や、地域の人と関わる体験活動を中心とした総合的な学習や生活科の授業研究、実践を重ね、児童のコミュニケーション力を育てる授業づくりを行う。また、R80を核とした逆算式の授業を構想し、授業力を向上させる。							
【研究概要】 ① 主な研究教科及び領域名 第10回中国・四国地区へき地・地域教育研究大会広島大会での授業公開に向けて、本年度、来年度と総合的な学習、生活科の授業研究を行う。その中で、地域の資源・佐木島の人々との交流や体験活動を通して、佐木島のすばらしさを学び、共有し、発信する力を育てる。 ② 研究の仮設 児童が、島民の方々と関わり、佐木島ならではの様々な体験活動を行い、児童の実態を把握し、一人ひとりの実態に応じた手立てを講じる。また授業者において、事前に書かせたいR80を設定した上で、それを引き出すための活動、支援、手立てを考える授業づくりを行うことで、授業力向上をめざす。以上を行うことで、児童は自分に合ったやり方で、主体的に学習に取り組むことができるのではないかと。							
【研究組織】 広島大学大学院 教授 服巻 豊 三原市教育委員会 指導主事 兼永正彦							
【成果指標と目標値】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童が主体的に活動する</td><td> ① 児童一人ひとりのQ Uアンケートの学習意欲の数値を昨年度以上にする。 ② 教師・児童アンケートの肯定的評価の割合が80%以上 </td></tr> <tr> <td>資質・能力が高まる</td><td> ① 各単元における児童の振り返りの内容の変化 ② 教師・児童アンケートの肯定的評価の割合が80%以上 </td></tr> </tbody> </table>		内容		児童が主体的に活動する	① 児童一人ひとりのQ Uアンケートの学習意欲の数値を昨年度以上にする。 ② 教師・児童アンケートの肯定的評価の割合が80%以上	資質・能力が高まる	① 各単元における児童の振り返りの内容の変化 ② 教師・児童アンケートの肯定的評価の割合が80%以上
内容							
児童が主体的に活動する	① 児童一人ひとりのQ Uアンケートの学習意欲の数値を昨年度以上にする。 ② 教師・児童アンケートの肯定的評価の割合が80%以上						
資質・能力が高まる	① 各単元における児童の振り返りの内容の変化 ② 教師・児童アンケートの肯定的評価の割合が80%以上						
【研究計画】 ※別添							

【研究計画】

学校名（三原市立鷺浦小学校）

期 日	教科・領域等	研 修 内 容	指 導 者
4 月	校内研修	令和7年度の研究の方向性 指導案の書き方について	
5 月	校内研修	指導案の書き方 指導案検討	
6 月	全体授業研 1年生 生活科 5・6年生 総合的な学習	授業研究 6月 1年生担任 今井 豊 5・6年生担任 神谷佳苗	広島大学大学院 教授 服巻 豊 三原市教育委員会
8 月	校内研修	1学期の研究授業の振り返り 2学期の授業に向けて 指導案作成・指導案検討	
9 月	校内研修	自主公開研究会に向けて 指導案検討	
10月	全体授業研 1年 生活科 2年 生活科 3・4年 総合 5・6年 総合	自主公開研究会 10月10日 1年担任 今井 豊 2年担任 丸山英子 3・4年担任 安田尚史 5・6年担任 神谷佳苗	広島大学大学院 教授 服巻 豊 指導主事 兼永正彦
10月		研究会の振り返り 次年度の方向性	
11月		2学期の授業の振り返り 指導案検討	
1 月	全体授業研 2年 生活科 3・4年 総合的な学習	授業研究 1月 2年担任 丸山英子 3・4年担任 安田尚史	広島大学大学院 教授 服巻 豊 指導主事 兼永正彦
2 月		来年度の研究の方向性 第10回中国・四国地区へき地・ 地域教育研究大会に向けて	